

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
那珂川町・栃木県	09411	1	H20～21	H20～21
活性化計画の区域				
那珂川地区（栃木県那珂川町） 区域面積19,144ha				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域産物の販売額の増加	0.20%	-2.81%	-1,405.00%	

(コメント)

施設整備に伴うイノシシ肉の販売額は、目標3,347千円に対し実績4,778千円となり、1,431千円の増となった。しかし、来客数の減少により、地区内にある農産物直売所9か所の販売額が減少したため、事業活用活性化計画目標は未達成となった。今後は、農産物直売所の販売額向上に向けて、農産物の融通や販売品目のリアルタイムでの情報共有を行うなどの直売所間の連携強化やイベント開催回数を増加させるなどの支援を行い、目標に近づけるよう努力していく。

2 目標達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
総合鳥獣被害防止施設	イノシシ肉処理施設 1棟			那珂川町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
那珂川町	平成20年度	平成20年度	平成21年4月1日	
事業の効果				
捕獲・処理したイノシシ肉を地域特産品として道の駅等で販売したり、地域の温泉旅館・食品加工会社等に調理の材料として販売することにより、都市住民との交流につながった。また、これまで捕獲者が自家消費していたイノシシ肉を買い上げるにより、捕獲意欲の向上と農作物被害の低減につながった。				

3 総合評価

(コメント)

本事業の導入により、新たな地域特産品を創造できた。
地域への入り込み客数を1万人増加させる目標については、県の「観光客入込数・宿泊数推定調査結果」によると、事業実施前の平成19年と21年を比較したところ、65,930人減少し、目標未達成となった。しかし、イノシシ肉を販売している「道の駅ばとう」の入込数は27,000人増加し、イノシシ肉料理を提供する温泉郷を含めた地域内の宿泊者数は24,440人増加している。このため、イノシシ肉の地域活性化に対する貢献は大きく、イノシシ肉の販売・提供により、「買いに来る客」、あるいは「食べに来る客」が増加し、都市住民との交流につながった。

4 第三者の意見

(コメント)

㈱ばとうむらおこしセンター 代表取締役社長 篠江 求 (ばとう道の駅)

新規特産品を立ち上げるには相当の努力が必要であるが、本事業の導入により早期に八溝ししまるブランドの立ち上げがなされ、販売にもスムーズに移行できたため、地域活性化に有効な事業であると考えている。

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。